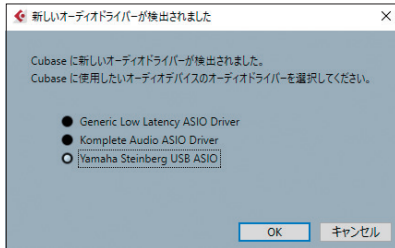


NOTE Cubase 11 の起動中に ASIO ドライバー 選択ダイアログが表示された場合は、使用する ASIO ドライバーを選択して OK をクリックしてください。または、いったんキャンセルして先へ進み、スタジオ設定ダイアログであらためて ASIO ドライバーを選択してもかまいません。



STEP 3 バッファサイズを設定する

オーディオシステムの下に表示される ASIO ドライバー名 ① をクリックして選択すると、画面の表示が STEP 2 の状態から右の画面例へと切り替わります。

コントロールパネル ② をクリックすると、製品によってデザインなどは異なりますが、その ASIO ドライバーに適合したオーディオインターフェイスのコントロールパネル ③ が開きます。

マイクやギター、外部 MIDI 音源の演奏をオーディオレコーディングする際に、モニター音が遅れて聞こえる現象 (レイテンシー) を極力小さくするためには、バッファサイズを小さく設定することが重要です。ここで例としている機種 (Steinberg UR-RT4) の場合は、コントロールパネルの ASIO タブにある Buffer Size ④ を、より Sample 数の小さいものに設定することで、バッファサイズを小さくすることができます。

NOTE コントロールパネルでの設定項目はオーディオインターフェイスの機種によってそれぞれ異なりますので、詳しくは製品付属のマニュアルを参照してください。

コントロールパネルを閉じ、Cubase 11 のスタジオ設定ダイアログを見ると、入力のレイテンシーおよび出力のレイテンシーの数値が小さくなっていることがわかります ⑤。

なお、PC の処理能力を超えるほどバッファサイズを小さくした場合、音が途切れる症状が発生します。この場合はサイズを再調整してください。

